

一〇年ほど前の話ですが、テレビで見た瀬戸内寂聴さんの声が可愛らしくて、モノマネをし始めたことがあります。まわりにもウケました。ただ、声の出し方やトーンや、出家して仏門に入られた著名な女流作家という外堀などはわかって、どんなお話をなさる方なのか。知りたくなった私は、CDを取り寄せて聴いたことがありました。講演会での収録だったのですが、お金にまつわる話がとて多いことが印象的でした。会場は大いにウケてて笑い声がいっぱい。なんでお金の話は人を惹きつけるのか、と私はそっちにも興味を持ちました。お金の話はなんだか普通はしたないとされている。けれども本来は誰にだって身近な上、そのぶん話に親身になれるアイテム。また、お金に対しての正直な気持ちには、必ず笑いが生まれます。

共感しやすいんですね。しかも小さい人を傷つけません。あとになってそんなことに気がつき、さすがの技術だなあと思いました。スピーチなどふいに頼まれて困った時は、お金の話からの始まりは保険になるかもしれませんね。

それにしてもお金って本当に不思議です。生活に便利でこれだけ日々役立ってるといふのに、苦しみや悲しみも常に生みだしま



絵・江口修平

ケチとユーモア

清水ミチコ

す。陰惨な事件にも、必ずといっていいほどつきまといつてます。私は昔から心から（欲しいなー！）と思わされたり、はたまた逆に（くそつ、カネのシステムさえなければ、世の中もっと平等なのに！）とも思ったりします。豊かさや憎しみ、常に両極端を持つのがお金の個性のようですね。私が初めてもらったお金は、キーキ工房でのバイト代でした。ちゃんと茶封筒に包まれてたことにも感激し、経営者にお礼を言うと「初給料なんだな。誰でも初回は感激するんだ。ところがさ、すぐもうのに慣れて当たり前になるんだよ」と笑われました。（いえ、私だけは違いますよ）と、その時は強く思いました。でも確かに三回目あたりからは無感動、当然なり、という顔になっている自分がいました。早い。お金は慣れるのもすぐだし、またなくなるのは早いものだというのが、働いて実感したことです。

ところでどうでもいいことですが、私の見解ではお金にケチな人ほどなぜか話が面白いんです。「カネに糸目はつけないよキミ」といったような、社長タイプの方の冗談はなぜかあんまり笑えないことが多いもの。もしかしたら人間の一抹のせせこましさというものを、ユーモアは大いに好むのかもしれない。

しみず・みちこ●タレント。岐阜県高山市出身。1983年、ラジオ番組の構成作家を始める。次第に出演機会も増え、翌年からはテレビCMの声のキャラクターを務め始める。1986年、渋谷ジャン・ジャンにて初ライブ。1987年、フジテレビ系『笑っていいとも!』レギュラーとして全国区デビューを果たす。以後、独特のモノマネと上質な音楽パロディーで注目され、テレビ、ラジオ、映画、執筆、CD制作等、幅広い分野で活躍中。毎年の日本武道館単独公演も恒例となっている。

